

いまの時代にモノをいうサニーの “低燃費＋サムシング”

使いやすさと経済性がファミリーカーのすべてだとはいえません。しかし、いちばん大切な条件です。



クルマは買うより買ってからの方が大変？

……とまでは言わないにしても、省資源の時代でもありますから、クルマ選びの眼目は、まず燃費。そこで、サニーです。1200cc全車と1400cc 5速フロアシフト車で、21km/ℓという素晴らしい数値をマーク。燃費が大巾にダウンするといわれる排出ガス規制をクリアした上での数値ですから、ますます価値あるものといえるでしょう。また、市街地での平均的な走行パターンにもとづいて測定した「10モード燃費」でも、13km/ℓ (1200cc)、を記録。これは運輸省の審査値ですから、サニーの経済性を知る上で、きわめて参考になるデータといえます。

ハイウェイや郊外での走行の目安

60Km/h定地走行テスト値 **21Km/ℓ**

市街地走行をモデルとした運輸省審査値

10モード燃費 **13Km/ℓ**

(いずれも1200cc車)

エコノメーター



隠れた部分で差がでます。

燃費ばかりがエコノミー・カーの条件ではありません。たとえば耐久性。故障が少なく、丈夫で長持ちすることも、大切な要素です。この点、「技術の日産」が心をこめて作りあげたサニーなら安心。各機構類の一点一点から細部の仕上げにいたるまで、日産の高度な技術力が全身に生きています。内外での豊富なレース、ラリー体験と、その知識——これらの蓄積の上に練成したメカニズムは、耐久性も抜群。また、充実した設備と熟練した人員を駆使して繰返される入念なチェックと、数々の苛酷なテストが、サニーの信頼性を大きく高め、ひいては経済性を高めることにもなっています。

気取っていえば「人間工学の勝利」です。

サニーはぴったり身体になじみます。あるべきものが、あるべき位置に…ドライバーがクルマに慣れるのではなく、クルマが乗る人に合わせて作られています。これを堅苦しく言えば、人間工学理論に磨きぬかれた人間中心設計——と、こうなります。たとえばインストルメント・パネル。スプーンですくったような立体的な曲面構造で、ドライバー中心設計の好例です。(オーバル・スクープ・コクピットと名づけられた、世界初の造形です) このほかノブのひとつにいたるまで、サニーは人の動き、心の動きを知りつくした設計。とても使いやすいクルマです。

クーペの魅力——ハッチバック！

ひたすら走りの醍醐味にひたるのもクーペの特権なら、遊びの世界をひろげるのも、クーペの価値のひとつ。大きく開く第三のドア＝ハッチバックは、遊びの楽しさを拡大する不思議な入口です。そして、リヤシートを倒すと、便利な“マジックスペース”が出現。モノを積むだけでなく、楽しさまで積める新しい空間です。みにくい開閉ヒンジがむきだしになっていないので、後ろ姿もとてもきれいです。

